

陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます
No.27 2009.6.15

第3号(24年7月号)から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年が60年の年です。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。



吉井勇 (歌人・1886~1960・宮中歌会始選者)



山口誓子 (俳人・1901~1994・新興俳句の指導的な存在)



岸本水府 (1892~1996) 5・川柳作家「番傘」を創刊



笑いたくても笑えぬものは 編集部選

天 岐阜 吉村比呂詩

ほがらかに飲むべきものは酒なりと夕映大人は酔ひて宜ろしき

地 名古屋 森 一好

ささやかなる暮らしにあれど一輪の花にも和む心持たまし人 奈良 甲野のぶ代

すこやけくありてわが背と麦を刈る青水無月の天つ日のもと

佳作 茨城 小松崎雅子

信仰の篤き母なれど時をりは曇りし面をふとも見せつる

愛媛 黒田 幸吉 海も山も変らず住める家も人も変らずわれに笑む君もまた

大阪 市村 春子 たらちねの母と離りて巷塵のなかに住まへば日毎寂しも

奈良 杉原 春雄 春いまだゆぶぐれ寒し藪蔭にしるじろとして堰越ゆる水 (以下略)

天 愛媛 黒田 幸吉

さもあらばあれ榎の芽のかたくなに

地 奈良 松本ひろし

卒業の写真雪嶺はうつり居らねども

評 記念の写真に雪嶺はうつつてはあぬが、背景にはあったのだ。校庭からいつも見た雪嶺が。

人 奈良 大木 とき

人を呼ぶ東風にむかひて口開き

評 人の名を呼んで大きく開いたその口に東風が入って来る。

佳作 京都 太田 茶村 落の臺谷間の雪の洞に萌え

奈良 植田 良年 陽炎のたてる丘まで子等とゆかん (以下略)

巡査

天 大阪 塩田 夢天

いい巡査だったと二升持ちちかえり

地 出雲 山路黙猿子

オーライと巡査子供に親しまれ

人 名古屋 森 一好

どうしたとお巡りさんのやさしい眼

佳作 岡山 甲田 清

公僕といわれて笑顔いい巡査

新潟 春岡 一福

近づくとき口紅のあるミス・ポリス

奈良 市川 三碧

警棒を光らす趣味のある巡査

徳島 南 京一郎

迷子へ巡査子持とすぐわかり

別府 北條 散人

親切にねまきのままの駐在所

選後に

川柳は人情や風俗を詠む簡潔明快な短詩で、作るうちに次第に味がよくなって、なぜもつと早くこの道を知らなかつたのだらうと思われる位になります。(以下略)

天 名古屋 森 一好

口もとに出来たオデキ

評 好い處を掴みましたね。

地 東京 瀬尾 明

旦那の禿頭に止った蠅

評 うっかり笑へば首が危い。

人 北海道 川村 由美

にらみっこ

評 当り前過ぎる處が面白い。

佳作 愛知 小島 清

落語放送中のアナウンサー

大分 高松 隆

お通夜に聞えて来る漫才放送

仙台 野間 傳造

社長の顔についてゐる御飯粒

京都 木村 義一

襖の陰で聞く痴話喧嘩

名古屋 森 一好

立腹中に聞く落語

大阪 小西 晴孝

お通夜のオナラ



風邪について

「万病の元」——風邪について、教祖から話を聞いた人の談話を、『御存命の頃』（高野友治著・道友社刊「参拝者の印象」の項）に見つけた。昭和十年（1935）ごろ、村田忠三郎さん（当時91歳・南都支教会〈現分教会〉の〈当時〉前会長）の話である。

村田氏は明治十六年（1883・52歳）の二月に入信。以前から目を患っていた妻が、人に勧められ天理へお参りしていた。やがて妻に頼まれて、仕方なく参拝に出かけて入信した。その折、村田さんは少し風邪を引いていたという。——教祖の申されるには、「……風邪というものは、どこから来るか知っております

か。顔から起こるのや。人間の顔には耳、鼻、目、口の四ツの引き手がある。その引き手で引っぱって持つてくるのや。それで四百四病という。風邪は元やで。このどれ一つ引かんと、みな喜んで、いんねんを喜びなされ」と申されました。



なあ、人間というものは、目で見て美しいと、あれ欲しいなあというて我が身に引っぱってくる。耳で聞いて美しいと、あれ欲しいなあというて我が身に引っぱってくる。鼻でかいでいい香りだと、あ

れ欲しいなあと我が身に引っぱってくる。口で味おうてうまいと、あれ欲しいなあと我が身に引っぱってくる。我に良ければ他人にも良からうと思うて、他人と喜びを共にせんならん。それを他人はどうあろうと我が身にだけ引っぱってくる。それがほこりや。それでいろいろの病のことを四百四病という。みなこの四つの引き手で引っぱってくるから四百四病というのや、とお教え下されるのであります。風邪は身びいきや。風邪は万病の元や。——何度も読み返すと、さまざまに連想が広がる話である。風邪を引いたとき、この話を思い出せば悟りを得られるかも知れない。風邪は「成人の元」と思った。

「陽気」創刊60年記念出版 お道の人のおとておきの話



四六判並製 240頁
定価=1,260円(税込)

お道の人
美しい心象風景 52話
朝席・夕席に最適です

七月二十六日発行

TEL0743-62-4503 養徳社 FAX0743-63-8077

「陽気」創刊60年記念出版

道の八十年

—松村吉太郎自伝—

初代真経様との強い絆のもと、一派独立請願運動、教祖四十年祭倍加運動など、天理教の歴史とともに生き抜いた信仰軌跡

松村吉太郎 著

(高安大教会初代会長)

定価=一、六八〇円(税込)

改訂新版

TEL0743-62-4503 養徳社 FAX0743-63-8077

月刊雑誌 おおきな創刊60年 陽気

定期購読をお申しいただくと

◎毎月発売日にあわせてご自宅、お教会へお届けいたします。
◎買い漏れがなく、毎号確実にとお読みいただけます。

修養科修了、友人、知人、お世話になった方へ1年間「陽気」をプレゼントしませんか。

お申込は
今すぐ!

〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL0743-62-4503
FAX0743-63-8077 養徳社 陽気定期購読係まで

『創刊60年定期購読特別割引』

通常 半年分1,420円 → **1,300円**
(税込・送料共)

1年分 2,840円 → **2,400円**
(税込・送料共)

※特別割引は平成21年12月末日お申込分までとなります

創刊60年記念懸賞小説募集

400字詰 20枚〜25枚

7月31日(消印有効)

詳しくは、「陽気」5月号をご覧ください。

養徳社 よもやま話

○月○日 以前から更新し続けていたホームページを陽気創刊六十年を記念して見やすく、活用しやすいように自社製作で全面的にリニューアルをしました。陽気の定期購読の申し込みや、新刊案内、本の注文などにご活用いただければと思います。リニューアルに伴いホームページアドレスも変わりました。

<http://yotokusha.com/>

「お道の本」「養徳社」などの言葉で検索してご覧ください。
○月○日 福祉関係の行事で社会見学に伊賀の里「モクモク手づくりファーム」へ行きました。ウインナーが食べられない私ですが手作り体験に参加。ウインナー作りが思った以上に工夫がある事を知り感激!! 羊腸に肉を詰め、ポイルする事15分。鍋の蓋を開けてびっくり! ウインナーが茶色ではなく白なんです! 実体験で分かる事、見える事を再認識できた一日だった。一本を食べたが克服できず残りは近所に住む妹へ献上しました。

広告を載せませんか

ようぼくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか? 料金は、記事中で一回二万円から。

詳しくは養徳社広告係まで
TEL0743-62-4503

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用いただけますよう、お願い申し上げます。

養徳社